

現状・課題

- ① 成人期まで使える情報共有ツールが無い
- ② 所属機関や支援者が変わる際、必要な情報のアンマッチや情報不足により、支援の停滞が起こりがちである
- ③ 新たな支援者につながっても、障がい特性や支援経過の共有が不十分なため、当事者・家族と支援者間の信頼関係の形成に時間がかかる

めざす姿

- ① 当事者・保護者と支援者間、または医療、保育、福祉、教育、就労等の各分野の支援者間で、個々の発達障がいの特性や支援に関する情報、ニーズ等の共有がスムーズに行える「情報共有ツール」がある。
- ② 各分野の支援者間で、個々の発達障がいの特性や支援に関する情報共有がスムーズに行われ、ライフステージを通じた切れ目のない支援の引き継ぎが行える仕組みがある。

取組方針

- 【1】 ライフステージの移行時や支援機関(者)等がかわる際の、支援の引き継ぎ状況、課題等について、自治体調査及び医療・福祉・教育・就労等の関係機関への聴取りを実施し、実態把握、要因分析を行う。
- 【2】 本市の現状について把握し、多角的な視点からの分析を行うため、本人・保護者のニーズを調査するとともに、各ライフステージで支援に携わる関係機関等に対して、意見を広く収集し、あるべき「情報共有ツール」の姿を分析する。
- 【3】 【1】及び【2】の結果をふまえ、共有すべき「情報」支援内容を整理し、「情報共有ツール」の内容を検討する。
地域の実情に応じた「切れ目のない支援の引継ぎのための仕組みづくり」を検討する。

取組み内容

【1】(平成29年度)：自治体調査の実施

【調査先】 ◆都道府県・政令市、医療・福祉・教育・就労等の関係機関。

【2】(平成30年度)：本人・保護者・関係機関等への調査の実施

【調査先】 ◆本人、保護者、保育所・幼稚園(公立・私立)、公立学校(小・中・高)、特別支援学校、専門学校、短大・大学、企業、障がい福祉サービス・障がい児支援事業所等、児童養護施設、医療機関、区、こども相談センター。

【3】(令和元・2年度)：情報共有ツールの内容の検討、支援の引き継ぎのための仕組みづくりの検討

【令和元年度】 ◆平成29・30年度に実施した調査結果の分析、情報共有ツールの内容及び普及啓発方法の検討。

【令和2年度】 ◆情報共有ツール「就学前編」を保護者等に試用してもらい、試用後に効果測定を実施。使用上の意見を分析し、より使いやすいものを作成。
◆就学时以降の移行期に有用な情報共有ツールを順次作成。 ◆情報共有ツールの普及啓発活動を実施。

【4】(令和3年度)：青年成人期向け情報共有ツールを活用した支援の仕組みづくりの検討

- ◆情報共有ツール「高校入学編」、「成人期編」等就学时以降の各ライフステージ毎に有用なツールを試用してもらい、試用後に効果測定を実施。
使用上の意見を分析し、より使いやすいものを作成。
- ◆各情報共有ツールの普及啓発活動を実施。

切れ目のない支援の引継ぎの仕組みづくり

～情報共有ツールを活用した仕組み～

～平成30年度本人・保護者・関係機関等への調査結果～

- 本人・保護者・関係機関等への調査は、複数の選択肢から当てはまるものを選ぶ「選択肢形式」と、思ったことや具体例を自由に記述する「自由記述形式」を併用して行った。
- 自由記述の回答には、より具体的な内容が記載されていたり、調査者が見落としていた視点について記載されていることから、選択式形式の回答のみでは、より具体的なニーズが十分に把握できない可能性がある。
- 情報共有ツールの活用希望、事前に情報提供がなかった場合に困ったこと等、生活場面が新たな環境に移る時の引継ぎの際にどのような内容・事項等の情報があれば役立つと思うかについて選択肢形式で尋ねたところ、保護者・関係機関等とも回答に共通した傾向がみられた。
- そのため、情報共有ツールの主な利用者となる保護者を中心に、自由記述欄の回答分析を行い、情報共有ツールの内容検討の一助とする。

～支援の引継ぎのための仕組みづくり～

令和元年度では、調査結果を分析した次の5つの項目に基づき、情報共有ツールを活用した支援の引継ぎが必要な「対象時期」、情報共有ツールの書式や項目などの「内容」、作成にあたって保護者への「支援」、支援者への「普及」の検討を行った。

- ライフステージに応じた情報提供が必要
- 保護者と専門分野異なる支援者間での理解・共有の困難性
- 環境の変化の場面での困難性と情報共有ツールの必要性
- 情報共有ツールは啓発活動の機能もあわせ持つ
- 情報共有ツールの具体的な内容

5つの項目に基づき検討した結果、具体的な引継ぎの仕組みづくりの実現には、次の2つの項目が必要と考えられる。

- 情報共有ツールの作成
「就学」という幼児期から学齢期の移行期を想定し、発達障がい児の保護者が理解、作成しやすい形の情報共有ツールを作成
- 情報共有ツールの普及
情報共有ツールを広く市内の関係機関に知ってもらうために、支援者への普及活動を実施し、保護者と支援者が情報を共有できる状況を促していく

切れ目のない支援の引継ぎの仕組みづくり

～ 情報共有ツールを活用した仕組み～

～ 情報共有ツール「就学前編」の試用の状況 ～

令和元年に作成した情報共有ツール「就学前編」試用版について、実際に使う人にとって使いやすいものになっているか検証するため、保護者に試用してもらい、意見や感想を聴取。支援者・関係機関等からも意見を聴取し、より使いやすいものに改善を図った。

試用状況

試用者	対象児童	試用状況			試用した保護者の主な意見
		配付者数	試用者数	実施時期	
ペアレント・トレーニング参加保護者	小学校1～4年生	5人	3人	令和2年8月	・入学時にあれば、子どもの発達の特徴を伝えるのに便利だったと思う。 ・コロナ禍で実際に登校する時期が6月になり、子どもの様子がわからず心配であったが、学校での様子を担任の先生に書いてもらって安心した。 ・担任の先生とのディスコミで困っていたので、書式をもらってぜひ使いたい。 ・チェックすれば良いので簡単で使いやすい。大きさや記入量はちょうどよい。 ・家にプリンターが無いので、印刷した形の方がよい。 ・「苦手なこと・不安になりやすいこと」は、伝えたいことが多いので、もう少し記入するスペースを多くして欲しい。
発達障がい児専門療育機関利用者、障がい児通所サービス利用者の保護者	年長児	20人	2人	令和2年11月	・入学時にどんな内容を伝えればよいかわか迷っていたが、書式にそってまとめることができて良かった。 ・家族内でもあらためてこの分野が気になるな、と共有することができた。 ・子どもを距離を持って客観視するきっかけになり、大変助かった。 ・療育機関に書いてもらうところがあるのが良かった。 ・座席の位置や安心できる声かけの仕方等を書くところがほしい。 ・苦手なこととその対応方法を同じ欄に書いた方がわかりやすいと思う。 ・サポートブックを参考に、本人の困りごと・解決法をもっと発見していきたい。 ・就学シートよりも書きやすかった。 ・量については、少ない（子どもの特性を書く欄が少ない）、多すぎる（なかなか全部目を通してもらいにくいのでは…）の両方の意見があった。
		26人	2人(11)	令和3年1～2月	

切れ目のない支援の引継ぎの仕組みづくり

～ 情報共有ツールを活用した仕組み～

主な意見

- ・プロフィールがそのまま個別教育支援計画に使えるので良い。
- ・情報共有ツールを使って、保護者と先生がやりとりして一緒に子どもについて考えていけることが重要であると思う。
- ・この情報ツールは、基本的に通常学級で過ごす、またはグレーゾーンの子どもたち対象に作成されているというイメージがある。
- ・普及啓発について：職員（教員・保育士）研修の中で注意喚起する機会があった方がよいと思う。
HPにアップする際、ツールとともに使い方の例が載っているマニュアルが必要であると思う。
- ・保護者の方たちには、わからなければ保育所園・幼稚園の先生にきいて一緒に作ることをすすめると良いと思う。
- ・保育所園・幼稚園の先生方に周知して、心配で相談してきた、もしくはグレーゾーンのお子さんや特徴があるがまだ気づいていない保護者の方に理解していただくツールに使っていただくとういと思う。
- ・保育所園の先生に、どんなことを情報提するとよいか、記入例の中でお知らせしておいた方がよいと思う。
- ・保育所園の先生や療育機関のコメント欄...いつ記載したのか日付を書く欄があったほうが良い。
- ・学校での過剰適応でしんどくなり不登校に至りそうなケースなどの場合、事前に先生に情報提供できる箇所があると良いと思う。
- ・医療情報を記入するところに、「てんかん」の有無を入れた方がよいと思う。
- ・「就学編」の対象：就学前から（年長）ときっちり記載されているほうがわかりやすい。

～ 情報共有ツール「就学前編」の完成 ～

情報共有ツール「就学前編」試用版について、保護者や支援者・関係機関等から意見を聴収したものを参考に、改善を図ったものを、エルムおおさかのホームページにアップロードした。情報共有ツール「就学前編」について、一定の完成はしたが、よりよい情報共有ツールとして保護者に活用してもらうため、今後も引き続き意見の聴取を行い、順次改善を図っていく。

これまで利用されてきた発達ノート「医療機関の記録」、「相談機関の記録」について、有用であるとの意見を受けて、情報共有ツールのオプションとして使用できるように、エルムおおさかのホームページにアップロードした。

【参考】

情報共有ツール「就学前編」：ホームページURL掲載

医療機関の記録：ホームページURL掲載

相談機関の記録：ホームページURL掲載

切れ目のない支援の引継ぎの仕組みづくり

～ 情報共有ツールを活用した仕組み～

～ 情報共有ツール「高校入学編」の試用～

就学時以降の各ライフステージ毎に有用なツールとして「就学前編」に引き続き、「高校入学編」を作成、使用する上での意見や感想を把握し、より使いやすいものへ改善するために、保護者や支援者に試用してもらい、試用後にアンケートを実施するとともに、その効果を測定する。

試用状況

(令和3年9月末現在)

試用者	対象生徒	配付者数	試用者数	その他
エルムおおさか 個別相談ケース 保護者	高校1年～2年	2	2	
大阪市内 親の会会員 保護者	高校1年～2年	10	?	

支援者・関係機関等からの意見の聴取状況

(令和3年9月末現在)

- ・保護者、当事者の会
- ・エルムおおさか 個別相談ケース 保護者
- ・他、発達障がい専門の大学教授・准教授など学識経験者 ... より、意見を聴取していく予定

～ 情報共有ツール「成人期編」の作成～

「就学前編」、「高校入学時編」に引き続き、「成人期編」を順次作成、試用版が作成出来次第、より使いやすいものへ改善するために、使用する上での意見や感想を保護者、支援者、関係機関より聴取し、保護者や支援者に試用してもらい、その効果を測定する。

「成人期編」については、就職、大学等進学、就労移行支援への通所等多様な進路が予想されることから、情報共有ツールとともに、個人の特徴やかかわり方で注意してほしい注意点を相手側に伝えるためのものを別途作成する

情報共有ツール「成人期編」のスケジュール予定

- ◆令和3年10月～11月 情報共有ツール「成人期編」案作成・試用・関係先等からの意見聴取
- ◆令和3年12月下旬～1月 情報共有ツール「成人期編」の試用版の改善
- ◆令和3年2月～3月 エルムおおさか連絡協議会、発達障がい者支援部会(第2回)で報告
- ◆令和3年3月 エルムおおさかホームページにアップロード

切れ目のない支援の引継ぎの仕組みづくり

～ 情報共有ツールを活用した仕組み～

～ 各種情報共有ツールの普及啓発 ～

作成した情報共有ツールを広く市内の関係機関、保護者に知ってもらうために、エルムおおさかのホームページに情報共有ツールをアップロードした。

併せて情報共有ツールの使用が必要となる保護者への普及啓発活動として、ペアレント・トレーニング講座への参加者などに周知し、保護者と支援者が情報を共有できる状況を促していく。

普及啓発の実施状況（令和3年度上半期、エルムおおさか主催講座の中で）

講座名等	日時	対象者	内容
ティーチャーズ・トレーニング連続講座 A・B	令和3年6月～	保育所保育士	連続講座の途中 または集合講座 の最後に紹介・ 配布
ペアレント・トレーニング連続講座 幼児	令和3年9月～	保護者	
ちょっと気になる子どもたちのからだ講座	令和3年9月14日	保護者・支援者	
【保護者対象】 第1回発達障がいの理解と支援（プラス）	令和3年9月24日	保護者	
幼児期ソーシャルスキル講座（3回連続）	令和3年9月～	保護者・支援者	